

オペレーターズマニュアル

# MJ840

輪郭モア





500 Venture Drive  
Orrville, OH 44667  
www.ventrac.com

### オーナー様へ ご連絡をいただく際に必要となる情報

製品の修理等について、Ventrac 正規販売店にお問い合わせされる場合は、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。

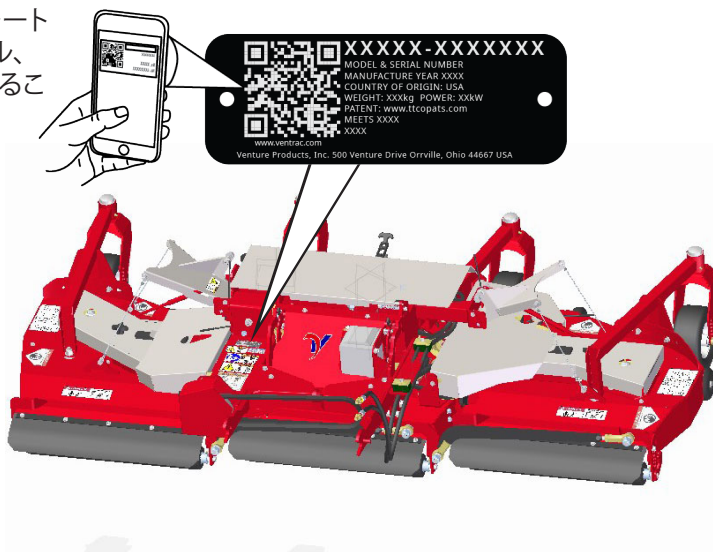
以下に必要情報をメモしておきましょう。製品の銘板は、下の写真に示す位置にあります。下のメモ欄に記録しておいてください。

販売店購入日: \_\_\_\_\_

販売店の所在地: \_\_\_\_\_

販売店の電話番号: \_\_\_\_\_ 販売店の FAX 番号: \_\_\_\_\_

モバイルデバイスでシリアル番号プレートのQRコードをスキャンして、マニュアル、保証、その他の製品情報にアクセスすることができます。



モデル番号 \_\_\_\_\_

シリアル番号 \_\_\_\_\_

Venture Products Inc. は、設計・仕様を変更する権利を留保します。弊社は、過去に製造された製品に対してかかる変更を行う義務を負いません。

# 目次

<b>はじめに</b>	<b>ページ 5</b>
製品の説明	5
オペレーターズマニュアルが必要な理由?	5
マニュアルのご使用方法	6
マニュアル用語	6
<b>安全関係</b>	<b>ページ 7</b>
基本的な安全対策	7
必要なトレーニング	7
個人用保護具 (PPE) の装着義務について	7
運転時の安全確保	7
人を乗せない	9
傾斜地での運転	9
トラックやトレーラによる搬送	10
メンテナンス	10
燃料の安全について	11
油圧機器の安全について	12
カッティングユニットの安全確保	13
安全デカル	14
<b>運転装置</b>	<b>ページ 16</b>
デッキピボットラッチ	16
一次 SDLA コントロールレバー	16
二次 SDLA コントロールレバー	16
<b>運転操作全般について</b>	<b>ページ 17</b>
日常点検	17
アタッチメントの取り付け	17
アタッチメントの取り外し	17
運転操作	17
アタッチメントを搬送する時	18
刈高の調整	18
アウターキャリアのホイールパス調整	18
芝削り防止ローラーの調整	18
マルチングキット (オプションアクセサリ)	19

# 目次

<b>整備</b>	<b>ページ 20</b>
機体の清掃と一般的な保守整備作業	20
デッキを立てる手順	20
刈り込みブレードの点検と交換	20
ブレードの研磨	20
ベルトの点検	21
アタッチメント駆動ベルトの交換	21
ギアボックスの駆動ベルトの交換	21
センターデッキベルトの交換	21
左側デッキベルトの交換	21
右側デッキベルトの交換	22
駆動ベルトの張りの調整	22
格納保管	22
潤滑ポイント	23
ギアボックスオイルの量の点検	23
ギアボックスオイルの交換	23
デッキの水平調整	24
整備スケジュール	26
定期整備チェックリスト	27
<b>仕様</b>	<b>ページ 28</b>
寸法	28
特長	28

## はじめに



Venture Products Inc.より、謹んでVentracの新しい輪郭モアをお届けいたします!Ventracの機器が、お客様にワントラクタソリューションをお届けできることを祈念しております。

お買い上げいただいた輪郭モアと組み合わせ可能な製品すべてを、弊社ウェブサイトでご覧いただくことができます。正規販売店でもご紹介可能です。

アクセサリ	説明	パーツ番号
	MJ840 マルチング(根覆い)キット	70.8087

### 製品の説明

MJ840は仕上げ刈り専用の目的で設計されています。MJ840は、211 cmの切断幅を備え、均一な切断と刈りくず排出のための完全な後部ローラー、後部排出、および跳ね上げデッキ設計を備えています。MJ840は3つの独立した浮遊デッキを備えており、各サイドデッキは最大40度の動きで地面の輪郭に追従します。

### オペレーターズマニュアルが必要な理由?

このマニュアルは、お買い上げいただいた機械を安全に運転操作し維持管理するために必要な重要な知識を身につけていただくためのものです。知りたい情報をすぐ探せるように、いくつかの章に分けて作成されています。

Ventracの機器それぞれについて、該当する取扱説明書をお読みにになり、内容を理解してください。マニュアルをお読みになることで、それぞれの機器に精通することができます。お客様ご自身の安全のためだけでなく、他の人々を危険から保護し、人身事故や装置破損を避けるためにお役立てください。この取扱説明書は、常に機械と共に保管してください。本機を売却する場合も、この取扱説明書を一緒に譲渡してください。マニュアルが破損したり読めなくなったりした場合は、すぐに交換してください。お近くのVentrac売店で新しいマニュアルを入手していただけます。

Ventracのアタッチメントを使用する際は、パワーユニットとアタッチメントの両方のマニュアルを読んで安全確保と正しい運転操作について学び、安全作業を心掛けてください。

このマニュアルには、機械の最も安全な運転方法と、機械の性能をを最大限に引き出すための情報が掲載されています。記載されている安全上の注意事項を守らないと、人身事故や機器の故障・損傷の原因となります。


# はじめに

## マニュアルのご使用方法

人身事故や機器の損傷などの事故を回避できるよう、この説明書では安全に関する特別なメッセージや記号を使用しています。

### 記号の説明

## 注意事項

 この記号は健康や安全に関する危険が潜んでいることを意味します。すなわち安全に関わる注意事項をお伝えするものです。あなたと他の人の安全に関わる内容です。

危険の度合いを表す3種類のキーワードがあります。危険、警告、注意、です。機械をお使いいただく際は、常に安全第一を心掛ける必要があります。適切な作業手順を守り、十分に運転操作経験を積んで、事故防止に努めてください。

注:このマニュアルでは、左右を表す方法を以下のように統一しております。左右は常に運転席に座って前を向いている状態を基準として表現されます。

## キーワードの意味

### 危険

危険は、人の生命に関わる重大な潜在的危険を意味します。この注意を守らないと死亡事故や重大な人身事故が起こります。危険の度合いが非常に大きい場合に、この言葉が用いられます。

### 警告

警告は、人の生命に関わる潜在的危険を意味します。この注意を守らないと死亡事故や重大な人身事故が起こる恐れがあります。

### 注意

注意は、安全に関わる潜在的危険を意味します。この注意を守らないとけがや物損事故をおこす可能性があります。安全でない行動や取扱い方法に対して注意を促す場合にも用いられます。

## マニュアル用語

**パワーユニット** Ventracトラクタやその他の Ventrac 製品でエンジンを搭載して自走することが可能な機械。アタッチメントやアクセサリを搭載することができる動力機械。

**アタッチメント** Ventrac 製品のうちで、パワーユニットによって駆動させる機械。

**アクセサリ** パワーユニットやアタッチメントに取り付けて使用する機械。

**マシン** パワーユニットと共に用いられるアタッチメントやアクセサリ。

# 安全関係



## 基本的な安全対策



### Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために

#### 必要なトレーニング

- 本機のオーナーは、オペレータに適切なトレーニングを施すことについて全責任を負います。
- 本機のオーナー・オペレータは、本機の運転操作に伴って発生しうる、すべての人身事故・物損事故の防止および結果について全責任を負います。
- トレーニングを受けていない人や子供に運転操作をさせたり修理整備をさせないでください。地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
- 本機を運転する前に、オペレーターズマニュアルを読んで内容を十分理解してください。
- オペレータがマニュアルの内容を理解できない場合は、オーナーの責任において、内容を十分に理解させてください。
- 運転に必要なすべての装置について、その使い方を学び、理解してください。
- パワーユニットやアタッチメントを緊急停止させる方法を知っておいてください。

#### 個人用保護具 (PPE) の装着義務について

- オーナーは、本機を運転するすべてのオペレータに、適切な防具 (PPE) を着用させる責任があります。本機を使用するときは、必ず以下の PPE を使用してください。
- 目 (視覚) と耳 (聴覚) の保護具 (認定品)。
- つま先が閉じている滑り止め機能のある履物。
- 長ズボン。
- マスク (ほこりの多い場所で作業する時)
- その他、状況に応じて必要となる保護具。その他の要件については、製品の安全についての章を参照してください。

#### 運転時の安全確保

- 長い髪は束ねてください。だぶだぶの服装は避けてください。アクセサリは身に着けないでください。
- 運転前点検を行ってください。破損したり欠落、摩耗している部品は交換してください。ガードやシールド類がすべて適正位置に取り付けてあり、正常に機能することを確認しましょう。運転に必要な調整は、運転開始前に済ませましょう。
- 本書では、説明の都合上、シールドやカバーを外すなどした写真を使用していることがあります。どんな場合にも、運転時にはシールドやカバーを必ず取り付けてください。
- 本機に改造や変更を加えると、安全性が低下し本機を破損させる恐れがあります。安全装置を改造しないこと、シールドやカバーを外したままで運転しないことをお守りください。
- 毎日の運転開始前に、運転装置がすべて正しく機能すること、安全装置がすべて正常に機能していることを確認してください。運転装置や安全装置が正常に機能していない場合は、運転しないでください。
- 運転前に、駐車ブレーキの機能点検を行ってください。必要に応じて駐車ブレーキの修理や調整を行ってください。
- 安全デカルに記載されているすべての注意事項を守ってください。
- どの運転装置も、運転席以外からは操作できないようになっています。

## 安全関係



### Ventracのパワーユニット、アタッチメント、 およびアクセサリの一般的な安全手順



- RPOS 搭載機では、ROPS を真っ直ぐに立てた状態で固定し、必ずシートベルトを着用して運転してください。
- 運転前に、アタッチメントやアクセサリがパワーユニットに確実に取り付けられていることを確認してください。
- 運転開始前に、パワーユニットとアタッチメントの周囲に人がいないことを確認してください。作業場所に人が入ってきたら機械を停止させましょう。
- 運転操作に集中しつつ、常に周囲の状況に注意を払ってください。常に機械の進行方向を注視してください。
- バックするときには、足元と後方の安全に十分な注意を払ってください。
- マシンが何かにぶつかったら、すぐに停止して点検してください。破損箇所は必ず修理してから、運転を再開するようにしてください。
- 故障や破損の気配に気づいたら、直ちに運転を停止してください。運転音が通常と異なるのは破損や故障の徴候の場合もあり、また整備をすれば直る場合もあります。破損箇所は必ず修理してから、運転を再開するようにしてください。
- ハイ・ローレンジ機能のあるマシンの場合、傾斜地では絶対にレンジの切り替えをしないでください。シフトは必ず平地で、駐車ブレーキをかけた状態で行うこと。
- 装置が動作中は機械から離れない。
- 駐車する時は必ず平らな場所に駐車してください。
- アタッチメントの駆動ベルトをパワーユニットに取り付ける時は、必ずエンジンを停止してください。
- 運転席を離れる場合には、必ず、アタッチメントを地表面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。すべての可動部が完全に停止するまで、運転席を離れないでください。
- マシンから離れる場合には、必ず、アタッチメントを地表面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。
- 十分な明るさのない場所で運転しないでください。
- 落雷の危険がある時には運転しないでください。
- アタッチメントから放出される刈りかすなどを、人や建物、動物、車などに向けしないでください。
- 壁やなどにも向けしないでください。壁などに当たった異物が飛んできてけがをする恐れがあります。
- 見通しの悪い曲がり角や、茂み、立ち木などの障害物の近くでは十分に安全に注意してください。
- 締め切った場所では、エンジンを運転しないでください。
- エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーに触れないでください。これらの部分は高温になっており、触れると火傷を負う危険があります。
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を規定以上に上げたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故の危険が大きくなります。
- バッテリーコンパートメント、エンジンルーム、マフラーの周辺などに刈りかす、落ち葉、大量のグリスなどの可燃物がたまると火災の恐れがありますから、こまめに掃除してください。
- マシンにぶつかったり、当たって跳ね飛ばされたりする可能性のあるものを作業場所に置かないようにしてください。



# 安全関係



## Ventracのパワーユニット、アタッチメント、およびアクセサリの一般的な安全手順



- ・ 作業場所に、無用の人間やペットなどを近づけないでください。
- ・ 作業を始める前に、作業場所をよく観察してください。安全に走行できるか、転倒の危険がないか、わからない場所では運転しないでください。
- ・ 不整地では速度を落としてください。
- ・ 不適切な運転は、重大な人身事故や死亡事故につながります。運転前に、パワーユニットと、使用するアタッチメントを安全に運転操作する方法を十分に理解してください。
- ・ 体調が悪い時や気分がすぐれない時、スマホなどの機器に対応しなければならないことが予想される時、判断力や反射的な動作に影響が出るような物質を摂取した時は、運転しないでください。
- ・ 子供はマシンに非常に興味を持つものです。子供に注意し、作業場所に入れないようにしてください。子供が近づいてきたらマシンを停止させてください。
- ・ パワーユニットやアタッチメント、アクセサリは、公道を走行することを目的としておりません。絶対に公道上や高速道路上で運転しないでください。
- ・ 道路の近くで運転するときは、安全灯を点灯してください。
- ・ 道路付近での運転や道路を横断する場合は、速度を落とすとして、周囲の交通に十分注意してください。道路や歩道を横断するときは、一旦停止してください。視界が遮られる場所やその近くでは、安全に十分注意してください。

### 人を乗せない

- ・ パワーユニットに乗れるのはオペレーター一人だけです。他の人を乗せないでください。
- ・ アタッチメントやアクセサリにも、絶対に人を乗せないでください。

### 傾斜地での運転

- ・ 斜面はスリップや転倒などを起こしやすく、これらは重大な人身事故につながります。パワーユニットの運転装置に十分に慣れると共に、緊急ブレーキをいつでも使えるようになってください。
- ・ 折りたたみ式の ROPS が装備されているマシンを傾斜地で運転する時は、ROPS を立ててロックしておく必要があります。
- ・ 傾斜が 15 度を超える場所で（ローレンジが使えるマシンでは）ローレンジで運転してください。
- ・ 傾斜地では、急停止や急発進をしないでください。
- ・ 傾斜地では絶対にハイ・ローレンジの切り替えをしないこと。レンジの切り替えや、パワーユニットをニュートラルにする時には、必ず平地に移動し、駐車ブレーキを掛けてください。
- ・ 濡れた路面やぬかるみなどは、安全性を低下させます。立ち往生する可能性のある場所や転倒する可能性のある場所では運転しないでください。
- ・ 危険な地形や見えにくい危険個所に注意してください。
- ・ 段差、溝、堤防などには近づかないでください。
- ・ 傾斜地で運転している時は、急旋回をしないように注意してください。
- ・ 傾斜地での牽引作業は安全性が低下します。傾斜地では、オーナー/オペレータの責任において、安全に作業ができる限界荷重を決定してください。
- ・ 移動走行する場合は、安定性を高めるため、アタッチメントを下げた状態または地表面にできるだけ近くまで下げてく

# 安全関係



## Ventracのパワーユニット、アタッチメント、 およびアクセサリの一般的な安全手順



ださい。

- 傾斜地では、可能な限り登り下り方向で運転してください。傾斜地を走行中に曲がる必要がある場合は、速度を落として谷側へゆっくりと曲がってください。
- 運転中に燃料切れを起こさないよう、十分な量の燃料を積んでおいてください。推奨燃料積載量は最低でもタンク 1/2 です。

### トラックやトレーラによる搬送

- トレーラやトラックにマシンを積み降ろすときには安全に十分注意してください。
- トレーラやトラックに積み込む際には、機体と同じ幅のある歩み板を使用してください。
- 搬送中のマシンは、駐車ブレーキだけで完全に固定することはできません。必ず、ストラップ、チェーン、ケーブル、ロープなどで、パワーユニットとアタッチメントを運搬車両にしっかりと固定してください。機体の前後に取り付けた固定ロープは、どちらも、機体を外側に引っ張るように配置してください。
- 搬送中は、パワーユニットの燃料バルブを閉めておいてください。
- バッテリー遮断スイッチのあるマシンでは、スイッチを OFF にして、通電を遮断してください。

### メンテナンス

- 安全デカルは全て読める状態に維持してください。安全や操作説明に関わるデカルはどれもグリスやほこりで汚れないように維持してください。
- デカルが色あせたり、読みにくくなったり、はがれてなくなったりした場合は、速やかに販売店に連絡して新しいデカルを入手してください。
- 新しい機器などを取り付ける場合は、それに最新の安全デカルが貼られていることを確認してください。
- 交換部品は必ず Ventrac 純正品を使用してください。
- 修理を行う前に、必ずバッテリー遮断スイッチを OFF 位置にするか、バッテリーを取り外してください。バッテリーの接続を外すときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。接続するときにはプラス端子に先に接続し、次にマイナス端子に接続してください。
- ボルト、ナット、ねじなどの締結具にゆるみが出ないように維持してください。
- アタッチメントは必ず床面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。清掃、点検、調整、修理などの作業は、すべての可動部が完全に停止したのを確認してから行ってください。
- パワーユニット、アタッチメント、アクセサリの修理方法や調整方法がオペレーターズマニュアルに記載されていない場合、それらの作業は Ventrac 正規販売店が行う必要があります。
- 運転席に人がいるときは、絶対にパワーユニットやアタッチメントに対する作業を行わないでください。
- バッテリーを取り扱うときは、必ず保護めがねを着用してください。
- 定期的に、燃料ラインとその取り付け具合、摩耗の有無を点検してください。必要に応じて締め付けや修理を行ってください。
- バッテリーコンパートメント、エンジンルーム、マフラーの周辺などに刈りかす、落ち葉、大量のグリスなどがたまると火災の恐れがありますから、こまめに掃除してください。
- エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの排気系統に触れないでください。これらの部分は高温になっており、触れると火傷を負う危険があります。
- マシンを格納する際にはエンジンが十分冷えていることを確認し、また裸火の近くを避けて保管してください。

# 安全関係



## Ventracのパワーユニット、アタッチメント、 およびアクセサリの一般的な安全手順



- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を規定以上に上げたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故の危険が大きくなります。
- スプリングには、エネルギーが蓄積されている場合があります。スプリングやバースプリング付き部品を取り外すときは注意してください。
- 駆動系や可動部・回転部に障害物や詰まりなどがあると、エネルギーが蓄積されていることがあり、それらの障害物や詰まりを取り除いた時、駆動系や可動部・回転部が急に動くことがあります。障害物や詰まりを手で取り除こうとしないでください。動力部には手、足、衣服などを近づけないでください。

### 燃料の安全について

- 人身事故や物損事故を防止するために、ガソリンの取り扱いには細心の注意を払ってください。ガソリンは非常に引火・爆発しやすい物質です。
- 喫煙しながらの給油、裸火や火花の近くでの給油はしないでください。
- 給油は必ず屋外で行ってください。
- 燃料や酸化した燃料が、裸火、火花、種火などに到達するような屋内で、マシンや燃料容器を保管しないでください。
- 燃料は必ず認定された容器に保存してください。子供の手の届くところに保管しないでください。
- トラックの荷台に敷いたマットなどの絶縁体の上では絶対に燃料の給油をしないでください。容器は車から十分に離し、地面に直接置いて給油してください。
- 給油は、マシンをトラックやトレーラから地面に降ろし、機体を接地させた状態で行ってください。マシンを車両に搭載したままで給油を行わなければいけない場合には、大型タンクのノズルからでなく、小型の容器から給油してください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に燃料タンクのフタを開けたり給油したりしないでください。エンジンが冷えてから給油してください。
- 傾斜地では絶対に燃料キャップを開けないでください。必ず、平らな場所に駐車してから開けるようにしてください。
- 給油後は、燃料タンクのキャップと燃料容器のキャップを確実に閉めてください。
- 燃料を入れすぎないでください。給油は燃料タンクの補給管の根元までとし、補給管一杯まで入れないでください。燃料タンクに燃料を入れ過ぎると、エンジン側に燃料があふれ出たり、タンクから燃料が漏れたり、燃料蒸気制御装置を損傷させたりする恐れがあります。
- 燃料がこぼれた場合、エンジンを始動させないでください。こぼれた場所からパワーユニットを離し、燃料が完全に気化して拡散してしまうまで、火気の使用を控えてください。
- 燃料タンクから燃料を抜き取る必要がある場合は、屋外で、認定された容器に排出することが必要です。
- 定期的に、燃料ラインとその取り付け具合、摩耗の有無を点検してください。必要に応じて締め付けや修理を行ってください。
- 燃料系統には燃料バルブが付いています。マシンを修理工場などへ搬送するとき、屋内に駐車するとき、は燃料系統の整備を行うときは、燃料バルブを閉じてください。

### 油圧機器の安全について

## 安全関係

---



### Ventracのパワーユニット、アタッチメント、 およびアクセサリの一般的な安全手順



- 油圧接続部にゆるみがないように、またすべての油圧ホースとチューブを良好な状態で維持してください。オイル漏れが発見された場合は、必ず修理し、損傷や劣化したホースやチューブを交換してから運転してください。
- 油圧のオイル漏れには、高圧が掛かっている可能性があります。したがって油圧オイルの漏れには特別の注意が必要です。
- オイル漏れ箇所を探すときは、段ボールと拡大鏡を使ってください。
- 油圧のピンホールリークやノズルからは作動油が高圧で噴出しているため、絶対に手などを近づけないでください。高圧で噴出するオイルは皮膚を突き破って重大な傷害を引き起こし、放置すると重篤な合併症や二次感染につながる恐れがあります。万一、油圧オイルが皮膚に入ってしまった場合は、どんなに軽傷でも直ちに医師の診察を受けてください。
- 油圧システムは内部にエネルギーを蓄積している場合があります。油圧システムの整備や修理を行う前には、すべてのアタッチメントを外し、駐車ブレーキブレーキをかけ、重量移動システム搭載機ではシステムを解除し、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。パワーユニットのエンジンを停止し、油圧コントロールレバーを左右に動かして補助油圧システム内の油圧を解放し、その後に補助油圧クイックカップラの接続を外してください。

# 安全関係

---



## MS840 の基本的な安全対策



- アタッチメントの油圧システムは、その内部にエネルギーを蓄積している場合があります。油圧システムの保守や修理を行う前には、アタッチメントの補助油圧ホースをパワーユニットから取り外す必要があります。アタッチメントを床面まで降下させてパワーユニットのエンジンを止め、2次 SDLA レバーを左右に何度か動かして補助油圧回路内部の圧力を解放した後に、補助油圧クイックカップラを外してください。

### カッティングユニットの安全確保

- 回転刃の危険: 回転している刈り込みブレードその他の可動部に触れると大けがをする。手足を近づけないでください。
- ひとつのブレードを回転させると、他のブレードも回転することがある。
- 異物が飛び出す危険: モアの排出口を人や動物や建物などに向けないこと。必ず、デフレクタを取り付けて使用すること。
- 刈り込みを行っていない時、特に砂利道のような場所を通る時などは、必ず PTO を OFF にすること。
- ブレード回転中は絶対にデッキを上昇させないこと。

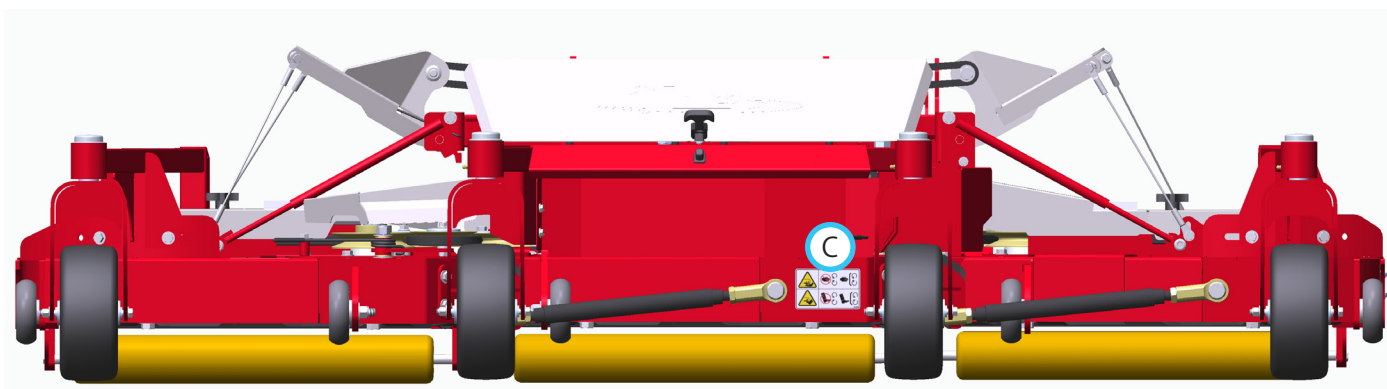
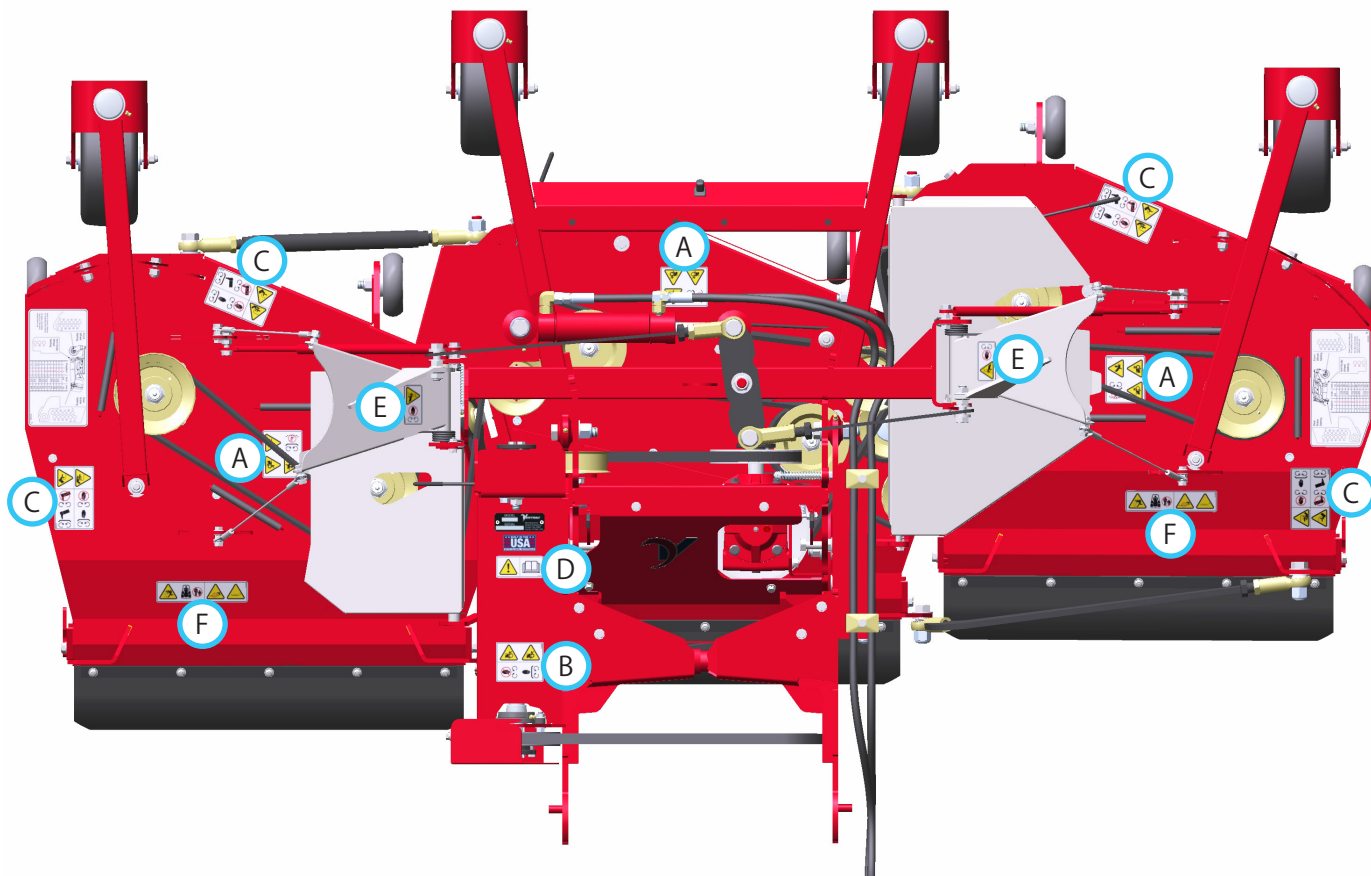
# 安全関係

## 安全デカル

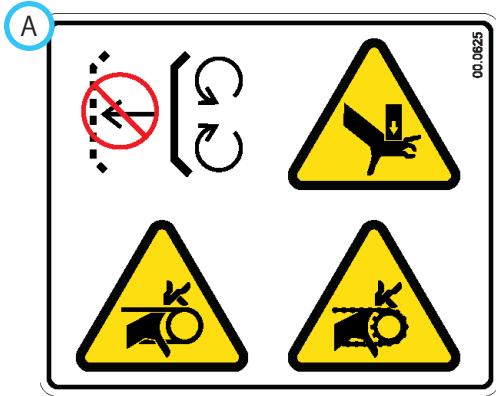
以下の安全デカルは必ずアタッチメントに貼付しておいてください。

安全デカルは全て読める状態に維持してください。安全や操作説明に関わるデカルはどれもグリスやほこりで汚れないように維持してください。デカルが色あせたり、読みにくくなったり、はがれてなくなったりした場合は、速やかに販売店に連絡して新しいデカルを入手してください。

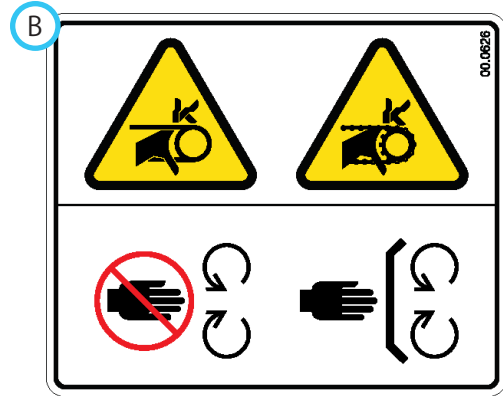
新しい機器などを取り付ける場合は、それに最新の安全デカルが貼られていることを確認してください。



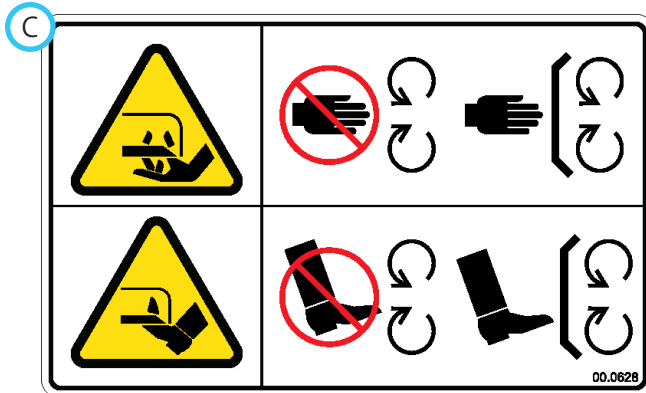
# 安全関係



シールドが外れている：取り付けて運転すること。  
挟まれたりつぶされたりする危険。  
指や手が巻き込まれる危険。



指や手が巻き込まれる危険。  
可動部に近づかないこと。  
すべてのガードやシールドを正しく取り付けて運転すること。



刈り込み刃によって手足をけがしたり切断する危険  
可動部に近づかないこと。  
すべてのガードやシールドを正しく取り付けて運転すること。



警告：オペレーターズマニュアルを読むこと。



身体を挟まれたりつぶされたりする危険  
可動部に近づかないこと。

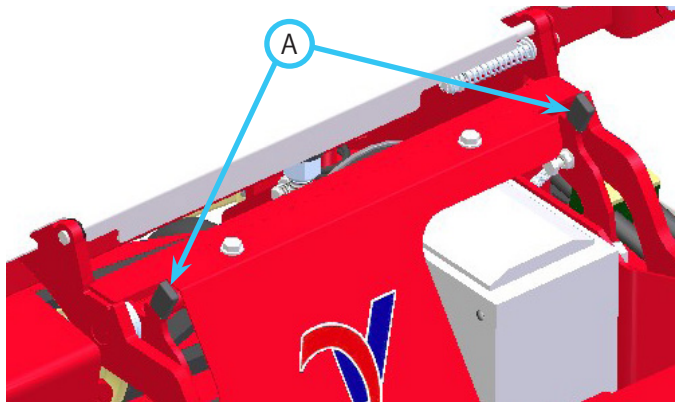


異物が飛び出す危険。  
機械の周囲に人を近づけないこと。  
デフレクタを外して運転しないこと。

デカル	名称	パーツ番号	数量
A	シールドが外れている	00.0625	3
B	巻き込まれる危険	00.0626	1
C	切断の危険：刈り込み刃	00.0628	5
D	オペレーターズマニュアルを読むこと	00.0619	1
E	警告：挟まれる危険	00.0364	2
F	異物が飛び出す危険。	00.0633	2

# 運転装置

## デッキピボットラッチ



デッキピボットラッチ (A) は2つの機能を実行します。

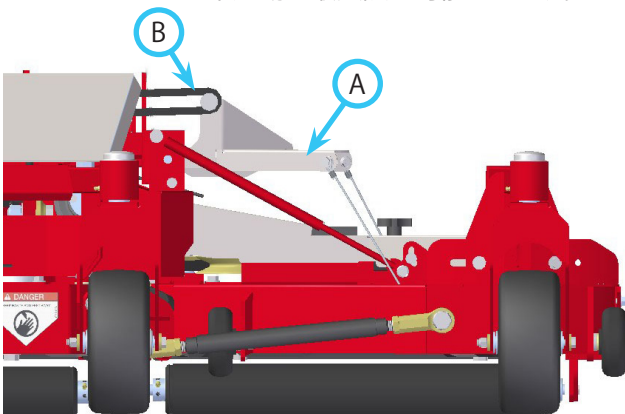
1. これにより、デッキは作動位置の範囲全体で回転することができます。
2. サービスやメンテナンスのためには、それはデッキを直立したサービス位置にロックします。

## 一次 SDLA コントロールレバー

一次 SDLAコントロールレバー\*を左に引くと、パワーユニットの前ヒッチとモアデッキが上昇します。レバーを右に倒すと、パワーユニットの前ヒッチとモアデッキが下降します。刈り込み作業中は、レバーをフロート位置（ディテント固定位置）にする必要があります。レバーを右に動かしてディテント（くぼみ）に入れると、レバーがその位置にロックされます。

## 二次 SDLA コントロールレバー

パワーユニットのセカンダリーSDLAレバー\*を左に引いて、左右デッキウイングのリフトアーム(A)を上げます。パワーユニットのセカンダリーSDLAレバー\*を右に押し、左右デッキウイングのリフトアーム(A)を下げます。芝刈りをするときは、リフトアームコントロールリンク (B) を完全に伸ばして、左右のモアデッキの上下運動を最大限に可能にします。



## 重量移動

パワーユニットの重量移動システムの適切な設定位置は、地形や地盤の状況によって変わる場合がありますが、ほとんどの場合は、ウエイト移動システム\*を最大能力の 1/2 から 3/4 に設定する必要があります。

\*パワーユニットの制御装置の使い方については、パワーユニットのオペレーターズマニュアルを参照してください。



# 運転操作全般について

## 日常点検



### 警告

機械の点検、修理、調整などを行う時は、必ず駐車ブレーキを掛け、パワーユニットのエンジンを停止してイグニッションキーを抜き取り、機械のすべての動作が完全に停止していることを確認すること。

1. 平らな場所にマシンを止め、エンジンを停止し、オイルなどが十分に冷えるのを待つ。
2. パワーユニットとアタッチメントの両方の目視点検を行う。ゆるんだり外れたりしている部品や、機器の破損や摩耗がないか点検する。
3. 油圧ホースと「油圧フィッティング」を点検し、接続部がしっかり締まっていてオイル漏れなどがないことを確認する。
4. 駆動ベルトに傷や過度の摩耗がないか点検する。このマニュアルの「ベルトの点検」の項を参照。
5. 刈り込みデッキのブレード、およびブレードの取り付けボルトを点検する。ブレードの刃先が鋭利であること、ブレードが確実に取り付けられていることを確認する。必要に応じて整備を行う。

## アタッチメントの取り付け

1. アタッチメントのヒッチアームまで、パワーユニットをゆっくり前進させる。パワーユニットの前ヒッチを上下させて昇降アームをアタッチメントのヒッチアームに合わせ、アタッチメントをパワーユニットに接続する。
2. 完全に入ったら、前ヒッチのロッキングレバーを閉じる\*。
3. 駐車ブレーキ\*を掛け、エンジンを止める。
4. アタッチメントの駆動ベルトを、パワーユニットのPTOの駆動プーリに取り付ける。それぞれのプーリにベルトが正しく掛かっていることを確認する。
5. PTO ベルトのテンションロッドを締める。
6. 油圧ホースの端部をきれいにぬぐい、パワーユニットの油圧クイックカップラに接続する。複数組みのホースを接続する場合は、同じ色のホースどうしを接続する（赤カップラには赤ホースという風に）。

## アタッチメントの取り外し

1. 平らな場所でパワーユニットを停止させて駐車ブレーキ\*を掛ける。
2. アタッチメントを地表面まで降下させる。
3. パワーユニットのエンジンを止める。
4. PTO ベルトのテンションロッドをゆるめる。
5. パワーユニットのPTOの駆動プーリから、アタッチメントの駆動ベルトを外す。

6. セカンダリSDLALレバーを左右に動かして、補助ホース内の圧力を解放します。油圧クイックカップラをパワーユニットから外し、ホースの端をカップラが汚れないアタッチメント上の場所に保管します。
7. 前ヒッチのロッキングレバー\*を解除する。
8. パワーユニットのエンジンを再始動し、ゆっくりとバックしてアタッチメントから離れる。アタッチメントが外れにくい時は、ステアリングハンドルを左右に軽く回してタイヤを揺るとよい。

## 運転操作

運転前に始業点検を行い、デッキの刈高の設定とパワーユニットの重量移動設定が適切であることを確認してください。

作業場所を下見し、石や棒など、デッキから飛び出したり、ブレードに絡まって危険なものなどを取り除いてください。

刈り込みデッキを芝面まで降下させ、パワーユニットの一次SDLALレバーを右一杯に（戻り止めに掛かるまで）押してフロート位置にセットします。戻り止めに掛かれば、レバーはフロート位置に固定されます。

パワーユニットのエンジンを 2,000-3,000 rpm に調整し、PTO スイッチを入れ、スロットルを希望のエンジン速度にセットします。

刈り込みラインを決めて前進で刈り込みを開始します。必要に応じて障害物の回避や異物の除去などを行いながら刈り込みを進めます。刈り込みラインの端に来たら、パワーユニットとデッキを旋回させて次の刈り込みラインに合わせて作業を続けます。

往復しながら刈り込むと、隣のラインとは反対方向に刈ることになるので、ストライプ刈りとなります。また、リアローラが進行方向に芝を寝かすことにより、さらに高いストライプ効果が得られます。

\*パワーユニットの制御装置の使い方については、パワーユニットのオペレーターズマニュアルを参照してください。

# 運転操作全般について

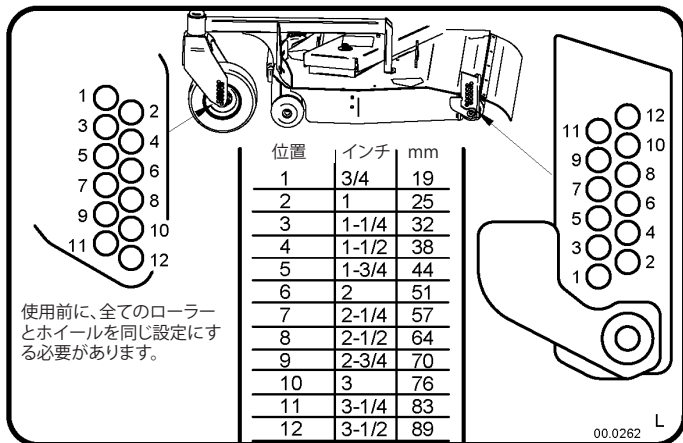
## アタッチメントを搬送する時

無駄な損耗を減らすため、左右のモアデッキとともに、パワーユニットのフロントヒッチとアタッチメントを一番上まで上げた状態で運搬してください。起伏の大きい路面や未舗装道などでは、パワーユニットを確実にコントロールできるように、また、パワーユニットやアタッチメントへの衝撃を軽減するために、速度を十分に落として走行してください。アタッチメントを搬送する際は、必ずパワーユニットのPTOを解除してください。

## 刈高の調整

モアデッキの刈り高さは、フロントキャスターホイールとデッキリアローラーの設定によって制御されます。すべてのホイールとリアローラーは同じ刈高位置に設定する必要があります。

1. デッキを立てて整備位置にする。このマニュアルの「デッキを立てる手順」を参照してください
2. 希望の刈り高さを決定します。刈り高さや位置については、モアの左右側面にあるデカールを参照してください。



3. キャスターホイールアックスルボルト4本を取り外し、希望の刈高位置に再度取り付けます。ボルトを 42 Nm·m (1.2 kg·m = 31 ft·lb) にトルク締めする。
4. リアローラーブラケットをデッキに固定しているボルト2本 (両側に1本ずつ) を取り外し、希望の刈り高さの位置に再度取り付けます。ボルトを 42 Nm·m (1.2 kg·m = 31 ft·lb) にトルク締めする。このステップは3つのデッキすべてで実行する必要があります。

## アウターキャリアのホイールパス調整

左右のモアデッキのキャスターホイールは、様々な用途に合わせて位置を変更することができます。

デッキのオーバーハングを最大にするには、ホイールフレームを最も内側の位置に取り付けます。

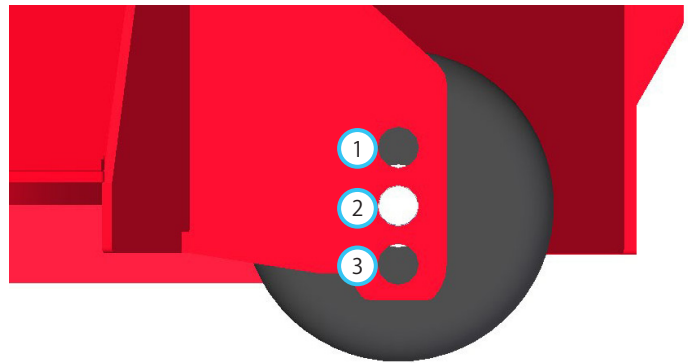
パス間の一貫性を最大限に高め、最高の切断品質を実現するには、ホイールフレームを最も外側の位置に取り付けます。

用途に応じて、左右のホイールフレームを異なる位置に設定しても構いません。

ホイールフレームの位置を再調整した後、取り付けボルトを 42 Nm (4.54kgm) のトルクで締めつけます。

## 芝削り防止ローラーの調整

MJ840の5つの芝削り防止ローラーには3つの取り付け位置があります。正しい取り付け位置は、モアの刈り高さの設定によって異なります。芝削りを防止するため、5つローラー全てを同じ推奨位置に取り付けてください。



刈り高さが 19 mm ~ 32 mm に設定されている場合は、軸刈り防止ローラーをポジション1に取り付けます。

刈り高さが 36 mm ~ 57 mm に設定されている場合は、芝削り防止ローラーをポジション2に取り付けます。

刈り高さが 64 mm ~ 89 mm に設定されている場合は、芝削り防止ローラーをポジション3に取り付けます。

ローラマウンティングボルトを 102 Nm·m (11.1 kg·m) のトルクで締めつけます。

## マルチングキット(オプションアクセサリ)

マルチングの手順は、天候や芝草の種類、土壌の状態などによって大きく異なります。一般的には、乾燥した状態の時に余り日を開けずに刈り込みを行うのがベストです。落ち葉のマルチングも、芝草が多少入る方が、うまくマルチングされてきれいに分散されます。

マルチングは通常の刈り込みよりも多くのパワーを必要とします。葉が濡れている時やぶ厚く茂った芝草をマルチングする場合は、デッキの内側の頻繁な掃除が必要になる場合があります。

最良の結果を得るには、モアのブレードを鋭く、良好な状態に保ってください。

# 整備

## 警告

機械の点検、修理、調整などを行う時は、必ず駐車ブレーキを掛け、パワーユニットのエンジンを停止してイグニッションキーを抜き取り、機械のすべての動作が完全に停止していることを確認すること。

## 注意事項

交換部品は必ず Ventrac 純正品を使用すること。

### 機体の清掃と一般的な保守整備作業

一日の作業が終わったら、刈り込みデッキの清掃と洗浄を行って、機体にこびりついた刈りかすや木葉、土などを除去しておく、外装をきれいに維持することができ、良い結果を得ることができます。デッキの裏面へのアクセスについては、「デッキの立て方」の項を参照してください。

モアを洗浄する時に、ベアリングやシールに高圧の水を直接吹きかけないでください。洗浄が終了したら、デッキを一度動作させて、駆動系のシールやベアリングの内部から水を追い出しておくことが重要です。洗浄が完了したら、デッキを通常運転位置に戻してください。パワーユニットとデッキを、ほこりやゴミのないきれいな場所に移動し、PTO を 30 秒間動作させて、残っている水を吹き飛ばしてください。

### デッキを立てる手順

1. パワーユニットとデッキを平らで滑らかな場所に駐車する。
2. パワーユニットのフロントヒッチを最も高い位置まで上げる。
3. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させ、イグニッションキーを抜き取る。
4. デッキピボットラッチをデッキの前方に移動して係合を解除し、モアデッキを垂直に近い位置まで持ち上げる。
5. デッキのピボットラッチを解除して、デッキを直立位置にロックする。
6. デッキを動作位置に戻すには、デッキの前部を持ち上げ、デッキピボットラッチをデッキ前方に移動して係合を解除し、デッキを動作位置まで下げる。
7. ギアボックス駆動ベルトのテンションスプリングを取り付ける。

### 刈り込みブレードの点検と交換

## 注意

刈り込みブレードは鋭利である。ブレードを取り扱うときは、必ず厚手の手袋を着用すること。

1. モアデッキを立てて整備位置にする。
2. ブレード刃先が十分に鋭いかどうか点検する。刃先が丸くなっていたり損傷したりしている場合は、取り外して研磨するか交換する。
3. ブレードの端とデッキフレームとの間に角材(5cm × 10cm 程度)を挟み込んで、ブレードが回転しないようにする。
4. 右側の3つのブレードの場合は、ブレードボルトを反時計回りに緩め、ブレードを取り外して研ぐか交換する。
5. 左側の3つのブレードの場合は、ブレードボルトを時計回りに緩め、ブレードを取り外して研ぐか交換する。
6. ブレードを取り付けてブレードボルトを締める際には、ブレードが回転しないよう、ブレードの反対側に角材などを嵌めてブレードをブロックすること。
7. ブレードボルトを102-108 Nm (11.02-11.10 kgm) のトルクで締め付ける。

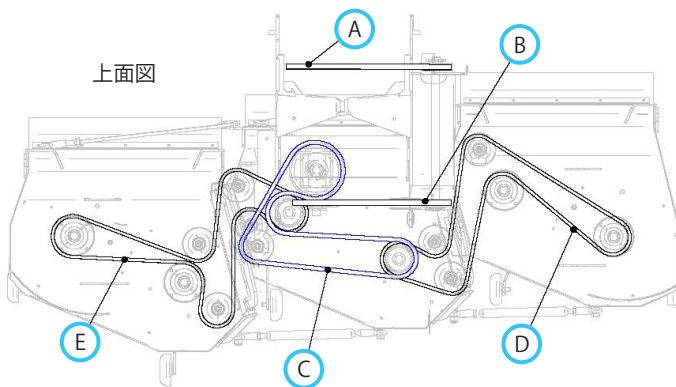
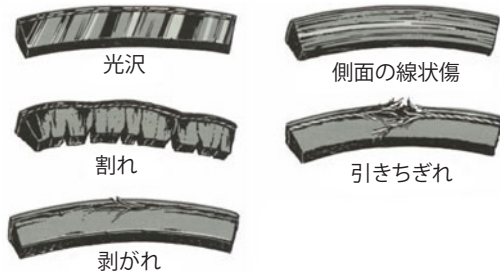
### ブレードの研磨

ブレードは研磨後にバランス調整が必要になります。研磨は専門家に依頼してください。バランスを維持しながら、左右とも以前と同じ角度で削り、刃の長さを同じに維持することが必要です。

## ベルトの点検

日常点検の一部としてアタッチメントの駆動ベルトを点検することにより、ベルトの劣化を早期に発見することができ、突然のベルト切れといった急なトラブルを防止することができます。

代表的な劣化状態を以下の図に示します。このような状態になったら、ベルトの交換が必要です。



## アタッチメント駆動ベルトの交換

1. パワーユニットからデッキを切り離す。
2. 駆動プーリーのシールドを外す。
3. アタッチメントのドライブベルト (A) を取り外す。
4. 新しいベルトをドライブシャフトプーリーに取り付ける。
5. 駆動プーリーのシールド (A) を元通りに取り付ける。

## ギアボックスの駆動ベルトの交換

1. パワーユニットからデッキを切り離す。
2. キャリアフレームのカバーを開ける。
3. ベルトのテンションスプリングを緩める。
4. ギアボックスドライブベルト (B) をギアボックスとドライブシャフトプーリーから取り外す。
5. 新しいベルトをギアボックスとドライブシャフトプーリーに取り付ける。
6. ベルトのテンションスプリングを掛ける。

## センターデッキベルトの交換

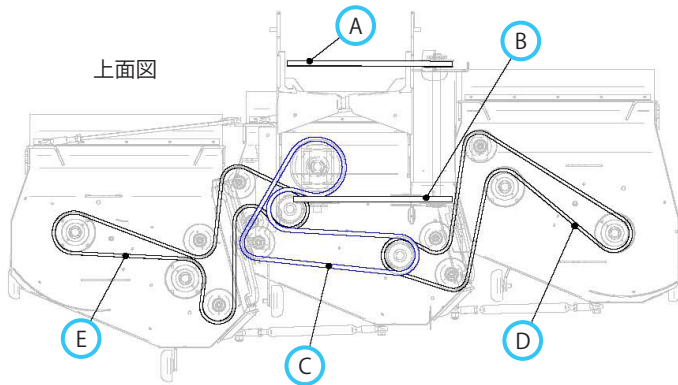
1. パワーユニットからデッキを切り離す。
2. キャリアフレームのカバーを開ける。
3. センターデッキベルトのテンションスプリングを緩める。
4. センターデッキベルト (C) を取り外す。
5. キャリアシールドの下側にあるベルトの図に示されているように、新しいセンターデッキベルトをスピンドルとアイドルプーリーに配置する。
6. ベルトのテンションスプリングを掛ける。

## 左側デッキベルトの交換

1. パワーユニットからデッキを切り離す。
2. キャリアフレームのカバーを開ける。
3. 左側デッキシールドと左側デッキヒンジシールドを取り外す。
4. 左側デッキベルトテンションスプリングとセンターデッキベルトテンションスプリングを緩める。
5. 左側デッキベルトを駆動するダブルスピンドルプーリーからセンターデッキベルト (C) を取り外す。
6. 左側デッキベルト (D) を取り外す。
7. キャリアシールドの下側にあるベルトの図に示されているように、新しいベルトをスピンドルとアイドルプーリーに配置する。ベルトはダブルスピンドルプーリーの下部溝に配置すること。
8. 左側デッキベルトのテンションスプリングを掛ける。
9. センターデッキベルトをダブルスピンドルプーリーに戻す。
10. センターデッキベルトのテンションスプリングを掛ける。
11. 左側デッキシールドと左側デッキヒンジシールドを再び取り付ける。

# 整備

## 右側デッキベルトの交換



1. パワーユニットからモアデッキを切り離す。
2. キャリアフレームのカバーを開ける。
3. 右側デッキシールドと右側デッキヒンジシールドを取り外す。
4. 右側デッキベルトテンションスプリングとセンターデッキベルトテンションスプリングを緩める。
5. 右側デッキベルトを駆動するダブルスピンドルプーリーからセンターデッキベルト(C)を取り外す。
6. 右側デッキベルト(E)を取り外す。
7. キャリアシールドの下側にあるベルトの図に示されているように、新しいベルトをスピンドルとアイドルプーリーに配置する。ベルトはダブルスピンドルプーリーの下部溝に配置すること。
8. 右側デッキベルトのテンションスプリングを掛ける。
9. センターデッキベルトをダブルスピンドルプーリーに戻す。
10. センターデッキベルトのテンションスプリングを掛ける。
11. 右側デッキシールドと右側デッキヒンジシールドを再び取り付け。

## 駆動ベルトの張りの調整

MJ840モアの各ドライブベルトには、適切なベルト張力を維持するためにバネが掛けられている。調整は不要。

## 格納保管

### アタッチメントの格納保管準備

1. アタッチメントについている刈りかす、落ち葉、ごみなどを取り除いてアタッチメントを洗浄する。
2. ゆるんだり外れたりしている部品や、機器の破損や摩耗がないか点検する。摩耗・破損した機器は交換する。
3. ベルト、スピンドル、ブレードの点検を行う。摩耗・破損した機器は交換する。
4. 油圧ホースやフィッティングが摩耗・損傷していないか点検する。接続にゆるみがなく、オイル漏れがないことを確認する。摩耗・破損した部品があれば交換する。
5. 安全デカルを点検する。色あせ、判読不能、または欠落しているデカルは交換する。
6. グリスポイント全部にグリスを注入する。はみ出たグリスは拭き取る。
7. ギアボックスオイルの量を点検する。
8. 保管中のモアの位置に応じて、露出したシリンダーロッドにオイルを軽く塗布することが推奨される。
9. 塗装部分に剥がれ、ひっかき傷、錆などがないか点検する。必要に応じてタッチアップする。

### 保管状態から通常使用状態への復帰

1. アタッチメントにたまっているごみやほこりを除去する。
2. このマニュアルの「日常点検」の手順に従って、アタッチメントの点検を行う。
3. 試運転を行って、すべてのコンポーネントとシステムが正常に動作することを確認する。

# 整備

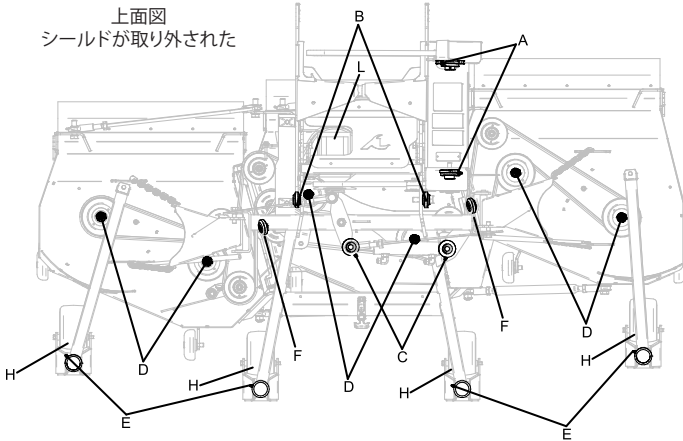
## 潤滑ポイント

以下の箇所には、リチウム系複合 NLGI #2 グリスによる潤滑を行ってください。

グリスフィッティングにグリスガンを接続する前に、グリスフィッティングの汚れを拭き取ってください。

整備間隔とグリスの量については、定期整備項目一覧表を参照してください。グリスアップポイントとグリス量は、キャリアフレームカバーの下側のメンテナンスデカールにも記載されている。

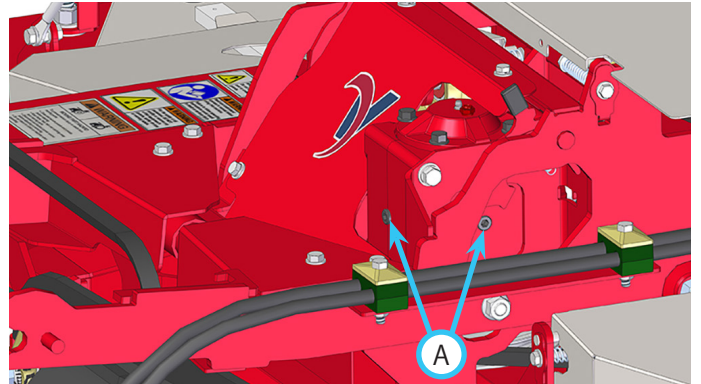
上面図  
シールドが取り外された



参照	名称	ロケーション数
A	ジャックシャフトベアリング	2
B	ヒッチアームのピボット	2
C	シリンダの端部	2
D	スピンドル	6
E	キャストホイールピボット	4
F	ヨークピボット	2
H	ホイールアスルのベアリング	4
L	ギアボックスストップベアリング	1

## ギアボックスオイルの量の点検

1. モアデッキを平らな場所に置く。
2. オイルレベルを確認するには、ギアボックスの後部または側面からプラグ (A) を取り外す。



3. ギアボックス内の油量を点検する。オイルが補給プラグの穴まであれば適正である。オイルが不足している場合は、オイル注入穴の下まで、75W-140 合成ギアオイルを追加する。
4. プラグをギアボックスの充填穴に再度取り付ける。

## ギアボックスオイルの交換

ギアボックスの取り付け構造上、ボックス底面にドレンポートはありません。フルードエクストラクタでギアオイルを抜き取るか、弊社正規ディーラに依頼してください。

1. モアデッキを平らな場所に置く。
2. ギアボックスの後部または側面にある注入口からプラグを取り外す。
3. フルードエクストラクタを使ってギアボックスから古いギアオイルを吸い出す。
4. 新しい 75W-140 合成ギアオイルを、オイル注入穴の下まで入れる。
5. プラグをギアボックスの充填穴に再度取り付ける。

# 整備

## デッキの水平調整

### フロントからリアまでのデッキのレベリング

- よごれのない、水平な硬い床面にモアを置く。
- モアブレードにアクセスし易いように、刈高さを高く設定する。全てのポイントは同じ切断高さである必要がある
- モアに空気入りタイヤが装備されている場合は、すべてのタイヤが同じ空気圧であることを確認してください。

### センターデッキ

- ブレードの先端がデッキの後方に来るようにモアブレードを回転させ、平面とブレードの先端の間の距離を測定する。
- 同じ先端がデッキの前部に来るようにモアブレードを回転させ、再度測定する。前側の刃先の高さが、後側の高さよりも 3.2 mm 低ければ適正。
- 前部の方が高い、または 3.2 mm 以上低い場合は、センターデッキの前後の水平調整を行う。調整を始めるには、デッキの前部をキャリアフレームに固定している1/2"ボルト4本を緩める。
- 左側と右側デッキの両方で、デッキの前部がデッキの後部に対して水平になるまで、デッキの前部を上げたり下げたりする。
- 1/2"ボルト4本を締め直す。締め付けトルクは 102 Nm (11.01 kg.m)

### 左側デッキ

- 後部ローラーがデッキ設置面と同じ高さであることを確認する。ローラーが水平でない場合 (ローラーの右端または左端のいずれかが地面から浮いている場合)、前後の接続リンクを調整する必要がある。
  - ローラーの外側が平らな面から浮いている場合は、リンクを短くする必要がある。ジャムナットを緩め、センターデッキからロッドエンドのボルトを外し、ロッドエンドを内側に2回転させる。ロッドエンドをセンターデッキに再度取り付ける。リアローラーが平らな面と同じ高さになるまでこれを繰り返し、ロッドの端をセンターデッキに再度取り付け、ジャムナットを締める。
  - ローラーの内側が平らな面から浮いている場合は、リンクを長くする必要がある。ジャムナットを緩め、センターデッキからロッドエンドのボルトを外し、ロッドエンドを外側に2回転させる。ロッドエンドをセンターデッキに再度取り付ける。リアローラーが平らな面と同じ高さになるまでこれを繰り返し、ロッドの端をセンターデッキに再度取り付け、ジャムナットを締める。

- ブレードの先端がデッキの後方に来るようにモアブレードを回転させ、平面とブレードの先端の間の距離を測定する。
- 同じ先端がデッキの前部に来るようにモアブレードを回転させ、再度測定する。前側の刃先の高さが、後側の高さよりも 3.2 mm 低ければ適正。
- 前部の方が高い、または 3.2 mm 以上低い場合は、デッキの前後の水平調整を行う。調整を開始するには、フロントヨークアンカープレートをセンターデッキの前部に固定している3/8"ボルト4本を緩める。
- 内側ブレードの場合は、内側ブレードが前方で 3.2 mm の高さになるまで、フロントヨークアンカープレートを上げ下げする。
- 3/8"ボルト4本を締め直す。締め付けトルクは 42 N·m (4.3 kg.m)
- 外側ブレードの場合は、タイヤスイベルフレームをデッキに固定している1/2"ボルトを緩める。
- タイヤスイベルフレームの下に1/2"のUSS平ワッシャーを追加して、デッキの外側前部を持ち上げる。既存のワッシャーを取り外して、デッキの外側前部を下げる。
- デッキが水平になったら、1/2"のボルトを102 Nm (11.01kgm) のトルクで締め付ける。

### 右側デッキ

- 後部ローラーがデッキ設置面と同じ高さであることを確認する。ローラーが水平でない場合 (ローラーの右端または左端のいずれかが地面から浮いている場合)、前後の接続リンクを調整する必要がある。
  - ローラーの外側が平らな面から浮いている場合は、リンクを長くする必要がある。ジャムナットを緩め、センターデッキからロッドエンドのボルトを外し、ロッドエンドを外側に2回転させる。ロッドエンドをセンターデッキに再度取り付ける。リアローラーが平らな面と同じ高さになるまでこれを繰り返し、ロッドの端をセンターデッキに再度取り付け、ジャムナットを締める。
  - ローラーの内側が平らな面から浮いている場合は、リンクを短くする必要がある。ジャムナットを緩め、センターデッキからロッドエンドのボルトを外し、ロッドエンドを内側に2回転させる。ロッドエンドをセンターデッキに再度取り付ける。リアローラーが平らな面と同じ高さになるまでこれを繰り返し、ロッドの端をセンターデッキに再度取り付け、ジャムナットを締める。
- ブレードの先端がデッキの後方に来るようにモアブレードを回転させ、平面とブレードの先端の間の距離を測定する。
- 同じ先端がデッキの前部に来るようにモアブレードを回転させ、再度測定する。前側の刃先の高さが、後側の高さよりも 3.2 mm 低ければ適正。



## 整備

---

21. 前部の方が高い、または 3.2 mm 以上低い場合は、デッキの前後の水平調整を行う。調整を開始するには、フロントヨークアンカープレートが右側デッキの前部に固定している3/8"ボルト4本を緩める。
22. 内側ブレードの場合は、内側ブレードが前方で 3.2 mm の高さになるまで、フロントヨークアンカープレートを上げ下げする。
23. 3/8"ボルト4本を締め直す。締め付けトルクは 42 N·m (4.3 kg·m)
24. 外側ブレードの場合は、タイヤスイベルフレームをデッキに固定している1/2"ボルトを緩める。
25. タイヤスイベルフレームの下に1/2"のUSS平ワッシャーを追加して、デッキの外側前部を持ち上げる。既存のワッシャーを取り外して、デッキの外側前部を下げる。
26. デッキが水平になったら、1/2"のボルトを102 Nm (11.01kgm) のトルクで締め付ける。

# 整備

## 整備スケジュール

整備スケジュール	箇所数	ポンプの数	必要に応じて	毎日	50 時間	100 時間	150 時間	200 時間	250 時間	300 時間	350 時間	400 時間	450 時間	500 時間	550 時間	600 時間	650 時間	700 時間	750 時間	800 時間	850 時間	900 時間	950 時間	1,000 時間	1年ごと	
グリスと注油：潤滑の章を参照																										
ジャックシャフトベアリング	2	1			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ヒッチアームのピボット	2	^			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
シリンダの端部	2	^			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
スピンドル	6	3			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
キャスタホイールピボット	4	1			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ヨークピボット	6	^			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
リアローラーベアリング (シリアル番号1001-1875)	6	1	**		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ホイールアックスのベアリング	4	^	**		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ギアボックスストップベアリング	1	1				✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓
ギアボックスオイルの量の点検						✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓
ギアボックスオイルの交換。交換オイルは 75W-140 合成ギアオイル					✓									✓											✓	
点検																										
機器・部品のゆるみ、欠落、損も度の確認				✓																						
ベルトとブーリの点検				✓																						
ブレードとブレード取り付けボルトの点検				✓																						
ヒッチのピボットボルトの点検締め付けトルクは 230 Nm (24.84 kg.m)						✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓
芝削り防止ローラーアックスルボルトをチェック締め付けトルクは 102 Nm (11.01 kg.m)						✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓
リアローラーアックスルボルトをチェック締め付けトルクは 47 Nm (5.08 kg.m)						✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓
キャスターホイールの軸ボルトと後部ローラーブラケットのボルトをチェック締め付けトルクは 42 Nm (4.54 kg.m)						✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓
安全デカルの点検				✓																						
^新しいグリスがはみ出てくるまで注入を続ける。																										
**苛酷な条件下で使用している場合には、より頻繁な点検・整備が必要となります。																										

# 整備

## 定期整備チェックリスト

定期整備チェックリスト	箇所数	ポンプの数	必要に応じて	毎日	50 時間	100 時間	150 時間	200 時間	250 時間	300 時間	350 時間	400 時間	450 時間	500 時間	550 時間	600 時間	650 時間	700 時間	750 時間	800 時間	850 時間	900 時間	950 時間	1,000 時間	1年ごと	
グリスと注油:潤滑の章を参照																										
ジャックシャフトベアリング	2	1																								
ヒッチアームのピボット	2	^																								
シリンダの端部	2	^																								
スピンドル	6	3																								
キャスタホイールピボット	4	1																								
ヨークピボット	6	^																								
リアローラーベアリング (シリアル番号1001-1875)	6	1	**																							
ホイールアックスのベアリング	4	^	**																							
ギアボックスストップベアリング	1	1																								
ギアボックスオイルの量の点検																										
ギアボックスオイルの交換。交換オイルは 75W-140 合成ギアオイル																										
点検																										
機器・部品のゆるみ、欠落、損も度の確認																										
ベルトとブーリの点検																										
ブレードとブレード取り付けボルトの点検																										
ヒッチのピボットボルトの点検締め付けトルクは 230 Nm (24.84 kg.m)																										
芝削り防止ローラーアックスルボルトをチェック締め付けトルクは 102 Nm (11.01 kg.m)																										
リアローラーアックスルボルトをチェック締め付けトルクは 47 Nm (5.08 kg.m)																										
キャスターホイールの軸ボルトと後部ローラーブラケットのボルトをチェック締め付けトルクは 42 Nm (4.54 kg.m)																										
安全デカルの点検																										
^新しいグリスがはみ出てくるまで注入を続ける。																										
**苛酷な条件下で使用している場合には、より頻繁な点検・整備が必要となります。																										

# 仕様

---

## 寸法

全高.....	56 cm
全長.....	132 cm
全幅.....	213 cm
重量.....	265 kg
搬送時全幅.....	208 cm
刈幅.....	211 cm
刈高範囲.....	19-89 mm
カッティング位置.....	12

## 特長

- デッキのフリップアップ機能
- サイドデッキが40度可動する3つの独立したモアデッキ。
- 芝削り防止フロントローラ
- 全長リアローラー
- ノーパンクフロントタイヤ